

# 未来

## 新聞

編集者

岡山市立螢明小学校



明榮さんが読んでいる様子

戦争から学ぶ

わたしたちの未来

岡山空襲被害とは？  
一九四五年六月二十九日午前二時四十三分  
B-29が現れ焼夷弾が岡山の町に小降り  
をいた。少なくとも七三七八人以上が亡くなり、  
多くの人がけがをした。

○明榮さんのお話  
「い、明榮さんの語った言葉  
この頃、お盆も食べ物もなく、とても貧しい  
生活をしていました。生まれてきた時代が悪い  
あいつは敵、学校は勉強をしないばかり  
そして、岡山空襲被害が起こったとき、焼夷弾が  
雨のように落ちてきた。黒いけいり、火も、山を  
こして見えず、くわいだった。土をくわいて、火も、山を  
かして、天皇からの玉璽が放送により、終戦を  
しました。その時は、空を合図くらいしか見えなかった。その  
から、この時の様子も変わって、生活が人間  
らしくなってきた。

二度とこのようなことはほしくない。させない。明る  
い日本を笑顔で送る日々を祈る。」

私は明榮さんの話を聞いて、戦争は、家族  
や安心できる心をつなげて、いくものだと考えた。  
戦時中の人たちは、色々なものを失って、い  
てくれただけ悲しい思いをしたが、どなただけ  
苦しい思いをしたが、終戦したときは、ど  
んなにうれしかったか、という気持ちからは  
戦争を経験して、おい、私たちが分ら  
ないだけ、このように、悪いことを持たない、  
何も失いたくないという気持ちを、  
二度と、このようなことをほしくない。させない。  
明るい日本、笑顔で送る日々を、  
現で送ることを思った。  
これからの未来につなげていきたい。

## 大原美術館の

### 静かな戦い

一九三〇年、大原美術館が開館!!  
その後、一九四一年に太平洋戦争が始まり、  
金属類保有調査(金属がどのくらいある  
かを調べ、回収する。)というものがあつた。  
静かな戦いが始まる。

一九四五年には水島空襲被害が起き、大原  
美術館は戦時中でも、芸術を求め  
る人のために公開することをねぼたか危  
険がせまり、絵画疎開を決意した。

疎開先は、岡山市日近の旧家の蔵  
になった。

六月二十五日には荷作りを開始し、  
全この絵は運ばないため、大切な作品  
を選んで、疎開させようとした。

○六月二十九日、  
大原美術館の絵画疎開の予定日  
は、六月二十九日。しかし、雨で中止になっ  
た。そして、岡山空襲被害も起きた日  
だった。大原美術館は、早く疎開を  
ければ、絵画まで反になってしまふとい  
うほどの危険がせまっていた。  
そして、無事、六月三十日に、絵画疎  
開が行われた。  
そして、大原美術館は、本来なら  
関係のない戦争から、たく、二人の  
絵画を守る、ことができた。

大原美術館の絵画疎開をするこ  
う決断は、未来の人のために、文化を  
守るために、という気持ちで強がった  
だと感じた。

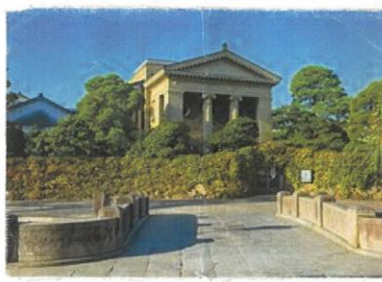
私が大原美術館に見学をしに  
行ったとき、絵画疎開されたとい  
思われるエル、グレコの「受胎告知」  
の作品があった。それを見たとき、  
このような絵は、たたく人の方に大  
切に守られてきたからこそあるも  
のだと思つた。

また、これも、他の美術館にはな  
い、大原美術館だけの、すばら  
しい歴史だと思つた。

私は大切に絵画と向き合いたい  
と思ふ。

そして、ずつとこの先も、大原美  
術館の絵画、歴史、文化  
を、守っていきたいと思ふ。

## 守っていく



大原美術館の写真

○伊賀さんの兄が死んだ木箱  
伊賀、節子さんの兄が死んだ木箱。  
その木箱の中には、手紙があった。  
なぜ手紙があるの？

伊賀さんの兄は、戦争によって、  
入隊をしなければならなかった。  
その中の一つの手紙には、  
元氣でやりませう  
達者でやれよ」と書いてあつた。

この手紙から、伊賀さんの兄は  
一生会えないかもしれないから家  
族に思いを伝えられたと思つた。  
伝えられた思いは、自分は元氣にす  
るから家族のみんなもがんばれ、  
という思ひだたことが分かった。伊賀さん  
も、色々な思いがこめられたものに感じた。

## まとめ・編集後記

わたしたちは、この戦争の歴史か  
ら、学ぶことがたくさんあつた。  
このような、こわい戦争は、二度と  
起こさないうちに約束したい。  
また、大原美術館の絵画疎開で  
は、最初はなぜ、戦争と美術館が  
結びつくのか分からなかつたけど、  
そこには、戦争と同じように忘れ  
てはいけない、大原美術館だけの  
深い歴史があつた。そして、伊賀  
さんの兄が死んだ木箱には、手紙  
が入っていて、その手紙の意味を  
知ると、戦時中の苦しい思いが少し  
でも分かった気がした。戦争のこと  
について、まだ知らない人に伝えてい  
たいと思つた。これからの未来は、わた  
したで決まると考えて、生きていこうと思